

高松市自治基本条例の 理念浸透に向けた取組に ついて

高松市 市民政策局 政策課

①現状と課題

- 市政出前ふれあいトークで、近年、自治基本条例の要望は少ない。（29年度0件、28年度0件、27年度2件）
- 自治基本条例の市民認知度が低いとの指摘がある。
- 市民満足度調査において
 - 18歳から29歳の世代の、高松市市政への関心がないとする割合が29.6%と高い。
 - 参画・協働の推進に関しては、満足度・不満度・重要度が低く、また、回答項目で「どちらでもない」とする割合が77.2%と高い。



市民の市政への関心を高めるためにも、ターゲットを絞った自治基本条例の理念の浸透を図ることが重要。

②自治基本条例の理念浸透についての基本的な考え方

テーマ

自治基本条例の基本原則など
★協働・参画
★市民、議会・行政の役割
など

ターゲット

若者を中心に幅広い世代
★世代ごとに扱うテーマを
設定

ツール

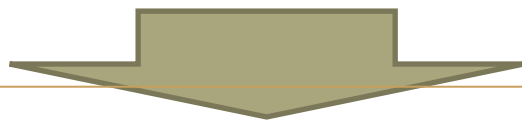
S N Sを中心に様々な媒体を活用
★S N Sは若者を中心に幅広い
世代が利用する時代

②若い世代への啓発（具体例 1）

＜分かりやすい表現＞（例）

- 参画・協働

市民は、市と協力・連携したり、また、市の政策等の立案などに主体的に関与し、地域の課題解決に取り組みます。



イベント等の周知に併せて、自治の理念もお知らせ

〇〇月〇〇日、〇〇で夏祭りが開催されます。皆さん、是非、御参加ください。

皆さんで協力して、楽しい夏の思い出を作りましょう。
夏祭りへの参加、ボランティアとして関わることは参画・協働への第一歩です。

参画・協働とは？→自治基本条例のページへ

②若い世代への啓発（具体例 2）

＜分かりやすい表現＞（例）

- 参画・協働

市民は、市と協力・連携したり、また、市の政策等の立案などに主体的に関与し、地域の課題解決に取り組みます。



委員募集の周知に併せて、自治の理念もお知らせ

〇〇会の委員を募集しています。皆さん、是非、御応募ください。

〇〇会の委員になって、色々な意見を述べることは市政への参画の第一歩です。

参画・協働とは？→自治基本条例のページへ

③幅広い世代への啓発

- SNSの情報発信にもターゲットごとのもの、例)子育て世代の参画、シニア世代の参画、セカンドライフでの参画などのテーマで、その世代に応じた参画方法を周知する。
- 広報たかまつへの定期的な掲載（年1回）
 - 一言広告「みんなのための自治基本条例」「協働？参画？情報共有？自治基本条例」などとともに、QRコードからHPへのリンクを掲載するなど。
- 講演会等におけるパンフレットの配布
 - 健康、子育て、文化、観光などの他の分野における講演会等において、パンフレットを配布するとともに、出前講座活用の周知など。
- 出前講座等の案内
 - コミュニティ協議会の事務担当者会において、自治基本条例についての出前講座（無料）を、研修会に利用できることなどを周知。

③幅広い世代への啓発（具体例）

＜分かりやすい表現＞（例）

- 自治基本条例には、自治の基本理念や自治運営の基本原則など、市民、議会、行政（執行機関）が協力して、市民全体の自治の実現を図ることとあります。

シリーズ物はHPでも
確認できるように

世代ごとにテーマ
を設定

市民、議会の議員、市役所の職員といった人たちが、それぞれ、力を発揮してまちをつくっていこう、という考え方です。

たとえば「野球は9人でやろうよ。これまでは内野（行政6人）だけでやっていたけれど、外野に置かれていた市民も野球をやろうよ」と呼びかけています。9人で野球をやって、野球に勝とうというのです。野球に勝つというのは、よいまちをつくるということです。